

令和6年度 神戸大学2次試験前期日程(数学問題)120分
理・工・医(医・保健(検査技術科学))・農・
国際人間科学(環境共生(理科系))・海事科学

問題 1 2 3 4 5

1 c を正の実数とする. 各項が正である数列 $\{a_n\}$ を次のように定める. a_1 は関数

$$y = x + \sqrt{c - x^2} \quad (0 \leq x \leq \sqrt{c})$$

が最大値をとるときの x の値とする. a_{n+1} は関数

$$y = x + \sqrt{a_n - x^2} \quad (0 \leq x \leq \sqrt{a_n})$$

が最大値をとるときの x の値とする. 数列 $\{b_n\}$ を $b_n = \log_2 a_n$ で定める. 以下の間に答えよ.

- (1) a_1 を c を用いて表せ.
- (2) b_{n+1} を b_n を用いて表せ.
- (3) 数列 $\{b_n\}$ の一般項を n と c を用いて表せ.

2 a, b, c は実数で, $a \neq 0$ とする. 放物線 C と直線 l_1, l_2 をそれぞれ

$$C: y = ax^2 + bx + c$$

$$l_1: y = -3x + 3$$

$$l_2: y = x + 3$$

で定める. l_1, l_2 がともに C に接するとき, 以下の間に答えよ.

- (1) b を求めよ. また c を a を用いて表せ.
- (2) C が x 軸と異なる2点で交わるとき, $\frac{1}{a}$ のとりうる値の範囲を求めよ.
- (3) C と l_1 の接点を P , C と l_2 の接点を Q , 放物線 C の頂点を R とする. a が(2)の条件を満たしながら動くとき, $\triangle PQR$ の重心 G の軌跡を求めよ.

3 n を自然数とする。以下の問に答えよ。

- (1) 1個のサイコロを投げて出た目が必ず n の約数となるような n を小さい順に3つ求めよ。
- (2) 1個のサイコロを投げて出た目が n の約数となる確率が $\frac{5}{6}$ であるような n を小さい順に3つ求めよ。
- (3) 1個のサイコロを3回投げて出た目の積が160の約数となる確率を求めよ。

4 1辺の長さが $\sqrt{2}$ の正方形 ABCD を底面にもち、高さが1である直方体 ABCD-EFGH を、頂点の座標がそれぞれ

$$\begin{aligned} A(1, 0, 0), B(0, 1, 0), C(-1, 0, 0), D(0, -1, 0) \\ E(1, 0, 1), F(0, 1, 1), G(-1, 0, 1), H(0, -1, 1) \end{aligned}$$

になるように xyz 空間内におく。以下の問に答えよ。

- (1) 直方体 ABCD-EFGH を直線 AE のまわりに1回転してできる回転体を X_1 とし、また直線 AB のまわりに1回転してできる回転体を X_2 とする。 X_1 の体積 V_1 と X_2 の体積 V_2 を求めよ。
- (2) $0 \leq t \leq 1$ とする。平面 $x = t$ と線分 EF の共有点の座標を求めよ。
- (3) 直方体 ABCD-EFGH を x 軸のまわりに1回転してできる回転体を X_3 とする。 X_3 の体積 V_3 を求めよ。

5 0以上の実数 x に対して、

$$f(x) = \frac{1}{2} \int_{-x}^x \frac{1}{1+u^2} du$$

と定める。以下の問に答えよ。

- (1) $0 \leq \alpha < \frac{\pi}{2}$ を満たす実数 α に対して、 $f(\tan \alpha)$ を求めよ。
- (2) xy 平面上で、次の連立不等式の表す領域を図示せよ。

$$0 \leq x \leq 1, \quad 0 \leq y \leq 1, \quad f(x) + f(y) \leq f(1)$$

またその領域の面積を求めよ。

解答例

1 (1) $\vec{u} = (1, 1)$, $\vec{v} = (x, \sqrt{c-x^2})$ とすると, $\vec{u} \cdot \vec{v} \leq |\vec{u}| |\vec{v}|$ であるから

$$x + \sqrt{c-x^2} \leq \sqrt{2}\sqrt{c}$$

上式において, 等号が成立するのは \vec{u} と \vec{v} が同じ向きするときであるから

$$x = \sqrt{c-x^2} \quad \text{これを解いて} \quad a_1 = x = \sqrt{\frac{c}{2}}$$

(2) (1) の結果を利用すると

$$a_{n+1} = \sqrt{\frac{a_n}{2}} \quad \text{ゆえに} \quad \log a_{n+1} = \frac{1}{2} \log a_n - \frac{1}{2}$$

$$b_n = \log a_n \quad \text{より} \quad b_{n+1} = \frac{1}{2} b_n - \frac{1}{2}$$

$$(3) b_1 = \log_2 a_1 = \log_2 \sqrt{\frac{c}{2}} = \frac{1}{2} \log_2 c - \frac{1}{2}$$

$$(2) \text{ の結果から} \quad b_{n+1} + 1 = \frac{1}{2}(b_n + 1)$$

$\{b_n + 1\}$ は初項 $\frac{1}{2}(\log_2 c + 1)$, 公比 $\frac{1}{2}$ の等比数列であるから

$$b_n + 1 = \frac{1}{2}(\log_2 c + 1) \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1}$$

$$\text{よって} \quad b_n = (\log_2 c + 1) \left(\frac{1}{2}\right)^n - 1$$



2 (1) l_1, l_2 がともに C に接するとき

$$C' : y = ax^2 + (b+1)x + c$$

$$l'_1 : y = -2x + 3$$

$$l'_2 : y = 2x + 3$$

とすると, l'_1, l'_2 はともに C' に接する. l'_1, l'_2 は y 軸対称より, C' も y 軸対称であるから

$$b+1=0 \quad \text{ゆえに} \quad \mathbf{b = -1}$$

C' と l'_1 から y を消去して, 整理すると

$$ax^2 + 2x + c - 3 = 0 \quad (*)$$

上の2次方程式は重解をもつから, 係数について

$$D/4 = 1^2 - a(c-3) = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \mathbf{c = \frac{1}{a} + 3}$$

(2) (1) の結果から C の方程式は $y = ax^2 - x + \frac{1}{a} + 3$

C は x 軸と2点で交わるから, 係数について

$$D = (-1)^2 - 4a \left(\frac{1}{a} + 3 \right) > 0 \quad \text{ゆえに} \quad 1 + 4a < 0$$

上の第2式の両辺に $\frac{1}{a^2}$ を掛けると

$$\frac{1}{a} \left(\frac{1}{a} + 4 \right) < 0 \quad \text{よって} \quad \mathbf{-4 < \frac{1}{a} < 0}$$

(3) C' と ℓ_1 の接点を P' , C' と ℓ_2 の接点を Q' とする.

$$P' \text{ の } x \text{ 座標は, } (*) \text{ から } x = -\frac{2}{2a} = -\frac{1}{a}$$

$$Q' \text{ は } P' \text{ と } y \text{ 軸対称であるから, その } x \text{ 座標は } x = \frac{1}{a}$$

P と P' , Q と Q' の x 座標は一致するから

$$C : y = ax^2 - x + \frac{1}{a} + 3 = a \left(x - \frac{1}{2a} \right)^2 + \frac{3}{4a} + 3$$

これより, 3点 P , Q , R の座標を得る.

$$P \left(-\frac{1}{a}, \frac{3}{a} + 3 \right), \quad Q \left(\frac{1}{a}, \frac{1}{a} + 3 \right), \quad R \left(\frac{1}{2a}, \frac{3}{4a} + 3 \right)$$

$$\text{したがって, } \triangle PQR \text{ の重心 } G \text{ の座標は } \left(\frac{1}{6a}, \frac{19}{12a} + 3 \right)$$

$$(2) \text{ の結果から } -\frac{2}{3} < \frac{1}{6a} < 0$$

$$\frac{19}{12a} + 3 = \frac{19}{2} \cdot \frac{1}{6a} + 3$$

$$\text{よって, 点 } G \text{ の軌跡は 直線 } y = \frac{19}{2}x + 3 \left(-\frac{2}{3} < x < 0 \right) \quad \blacksquare$$

3 (1) サイコロの目 1, 2, 3, 4, 5, 6 の最小公倍数は 60
よって, 求める 3 つの数は **60, 120, 180**

(2) n の約数となるサイコロの目の集合を A とし, A の大きさ (要素の個数) を $|A|$ とする. $1 \in A, 2 \notin A \Rightarrow 6 \notin A, 3 \notin A \Rightarrow 6 \notin A, \{2, 3\} \subset A \Rightarrow 6 \in A$ に注意すると, $|A| = 5$ となる A は次の 2 通り.

$$A = \{1, 2, 3, 4, 6\} \quad \text{または} \quad A = \{1, 2, 3, 5, 6\}$$

これを満たす n を小さい順に 3 つ求めると **12, 24, 30**

(3) $160 = 2^5 \cdot 5$ より $A = \{1, 2, 4, 5\}$

このとき, 5 の目が出るのは 1 回まで, 3 回とも 4 の目は出ない.

- 5 の目が出ないときの確率は

$$\left(\frac{3}{6}\right)^3 - \left(\frac{1}{6}\right)^3 = \frac{26}{216}$$

- 5 の目が 1 回出るときの確率は

$${}_3C_1 \left(\frac{1}{6}\right)^1 \left(\frac{3}{6}\right)^2 = \frac{27}{216}$$

これらの事象は互いに排反であるから, 求める確率は

$$\frac{26}{216} + \frac{27}{216} = \frac{53}{216}$$

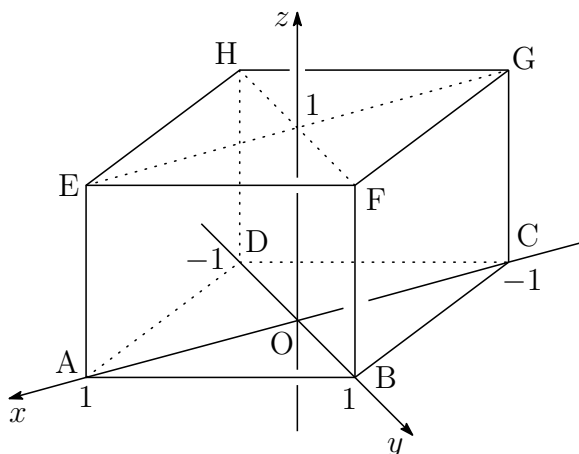


- 4 (1) 直線 AE のまわりに 1 回転してできる回転体 X_1 の体積 V_1 は

$$V_1 = \pi AC^2 \cdot AE = \pi \cdot 2^2 \cdot 1 = 4\pi$$

$A(1, 0, 0)$, $B(0, 1, 0)$, $H(0, -1, 1)$ より $AB = \sqrt{2}$, $AH^2 = 3$
直線 AB のまわりに 1 回転してできる回転体 X_2 の体積 V_2 は

$$V_2 = \pi AH^2 \cdot AB = \pi \cdot 3 \cdot \sqrt{2} = 3\sqrt{2}\pi$$



- (2) 直線 EF の方程式は $x + y = 1, z = 1$
これと平面 $x = t$ との共有点の座標は $(t, 1 - t, 1)$
 $0 \leq t \leq 1, 0 \leq 1 - t \leq 1$ であるから, この共有点は線分 EF 上にある.
よって, 平面 $x = t$ と線分 EF との共有点の座標は $(t, 1 - t, 1)$
- (3) x 軸上の点 $(t, 0, 0)$ と (2) の共有点 $(t, 1 - t, 1)$ との距離を d とすると

$$d^2 = (t - 1)^2 + 1$$

したがって, 求める回転体 X_3 の体積 V_3 は

$$\begin{aligned} \frac{V_3}{2\pi} &= \int_0^1 d^2 dt = \int_0^1 \{(t - 1)^2 + 1\} dt \\ &= \left[\frac{1}{3}(t - 1)^3 + t \right]_0^1 = \frac{4}{3} \end{aligned}$$

よって $V_3 = \frac{8}{3}\pi$ ■

5 (1) $u = \tan \theta$ とすると $\frac{du}{d\theta} = \frac{1}{\cos^2 \theta}$

u	$0 \rightarrow \tan \alpha$
θ	$0 \rightarrow \alpha$

$$\begin{aligned} f(\tan \alpha) &= \frac{1}{2} \int_{-\tan \alpha}^{\tan \alpha} \frac{1}{1+u^2} du = \int_0^{\tan \alpha} \frac{1}{1+u^2} du \\ &= \int_0^{\alpha} \frac{1}{1+\tan^2 \theta} \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta = \int_0^{\alpha} d\theta = \alpha \end{aligned}$$

(2) $x = \tan \theta_1$, $y = \tan \theta_2$ とすると, $0 \leq x \leq 1$, $0 \leq y \leq 1$... ①

$$0 \leq \theta_1 \leq \frac{\pi}{4}, \quad 0 \leq \theta_2 \leq \frac{\pi}{4}$$

次に, $f(x) + f(y) \leq f(1)$ を (1) の結論に適用すると

$$\theta_1 + \theta_2 \leq \frac{\pi}{4} \tag{A}$$

$x = y = 1$, すなわち, $\theta_1 = \theta_2 = \frac{\pi}{4}$ とすると, (A) に反するから

$$0 \leq xy < 1 \quad \dots \text{②}$$

(A) から $\tan(\theta_1 + \theta_2) \leq \tan \frac{\pi}{4}$

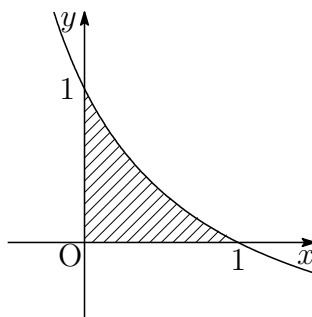
$$\frac{\tan \theta_1 + \tan \theta_2}{1 - \tan \theta_1 \tan \theta_2} \leq 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{x+y}{1-xy} \leq 1$$

①, ② に注意して, 上の第 2 式を y について解くと

$$0 \leq y \leq \frac{-x+1}{x+1} = \frac{2}{x+1} - 1 \quad (0 \leq x \leq 1)$$

求める面積は, 下の図の斜線部分であるから

$$\int_0^1 \left(\frac{2}{x+1} - 1 \right) dx = \left[2 \log(x+1) - x \right]_0^1 = 2 \log 2 - 1$$



■